

中央大学附属高等学校・進路学習プロジェクト

2020年11月11日、学校応援プロジェクトのキャリア教育プロジェクトメンバーを中心とした13名の学生スタッフが中央大学附属高等学校2年生の進路学習授業に参加しました。

中央大学附属高等学校では、3年生から文系選択と理系選択に分かれます。高校2年生の秋から冬にかけては、大学の学部選びを見据えて文系・理系を考える時期であり、中央大学の各学部の教員による出張授業等、さまざまな取組みが行われています。今回は、大学でどのような学習をしているか、どのような大学生活を送っているのか、高校生のとときにどんなことを考えて進路を選ぶべきかなど、大学生からのリアルな声を聞く機会として企画されました。



参加するメンバーは事前にオンラインによるミーティングを行い、会の趣旨と高校側の要望を確認・共有したほか、自身の経験や考えをわかりやすく伝えられるよう、オリジナルのシートを用いて整理を行う等の準備を行って当日に臨みました。また、中央大学附属高校出身のメンバーからは、高校において生徒たちがどのように進路を考え選択していくかということについて、実体験に基づいたアドバイスがありました。

当日は、①授業時間帯を使ったプレゼン＆質疑応答、②放課後の時間を利用した個別相談コーナーの2本立てで行われました。

授業時間帯を使ったプレゼンは、文系の学生は2クラスないし3クラスを回って、それぞれの教室で自身の大学生活やキャリア形成に関するプレゼンを行う形式、理系の学生は多目的ホールにて理系志望の生徒

を対象にプレゼンを行う形式で、プレゼンの後には生徒からの質問に答えました。1・2年生のメンバーには、生徒の前で話すこと自体が初めてという学生も少なくなく、しかもマスクをしながらの発表ということで、1クラス目が終わると汗だくになっているメンバーも……。一方、生徒たちは、年齢の近い大学生からのリアルな大学生活の話や高校時代の実体験に基づいた話にぐんぐんひきこまれ、熱心に聞いていました。

質問タイムでは、「一日どのくらい勉強しますか」「大学の授業は難しいですか」という質問はもちろん、「後樂園キャンパスの周りおいしい食べ物屋さんありますか」「サークルってどうですか」というような、高校生ならではの質問も飛び出し、教室が笑いにつつまれていました。

授業の終了後は、大会議室に会場をうつし、個別に質問したい生徒を迎えます。「こういう勉強をしたいんですけど、この学部でいいですか?」「将来、〇〇になりたいんですけど・・・」など、より詳細な質問・相談が寄せられ、メンバー達は真剣にアドバイスをしていました。予想以上に多くの生徒が質問に訪れ、質問のあとには「ありがとうございました!」と笑顔で帰っていったのが印象的でした。

参加したメンバーは、短い時間ではありましたが、生徒の興味・関心をひきつけながら話をすることの難しさや、クラスによって雰囲気異なり、それによって話しやすさも大きく違うということへの気づき、大人数の前で声を出すことが予想以上に体力を使うということも実感したようです。

プロジェクト終了後にはオンラインで振り返りを行うミーティングを実施し、次回、同じ企画を実施するならばどのような点を改善すべきかということについても検討を行いました。

